

# オンライン会議 活用事例集

## Zoom Rooms



- 総合物流会社様
- イベント企画会社様
- 工作機械製造販売会社様
- 地方公益法人様



VTB ジャパン株式会社

<東京オフィス>  
〒102-0073 東京都千代田区九段北1-11-11 第2フナトビル6階  
TEL.03(5210)5021 FAX.03(5210)5022

<大阪オフィス>  
〒541-0048 大阪市中央区瓦町4-5-9 井門瓦町ビル5階  
TEL.06(4706)3930 FAX.06(4706)3931

\* 本カタログの記載内容は2023年4月現在のものです。  
\* 利用シーンの写真には、はめ込み画像などイメージ画像が含まれます。  
\* 製品の外装・仕様・価格は、予告なく変更される場合があります。製品の詳細や仕様などについては、営業担当にご確認ください。  
\* 会社名および製品名、ロゴマークは各社の商標または登録商標です。



## Zoomの会議に簡単に参加できる！ Zoomの専用機「Zoom Rooms」

Zoom Roomsは、WindowsまたはAndroid OSを搭載した本体に、操作用タッチパネル、カメラ、マイク、スピーカーなどの映像・音声デバイスとZoom Rooms専用ライセンスで構成される、会議室向け専用機です。

誰でも簡単に操作できるタッチパネル方式を採用し、3ステップで会議に参加でき、PC由来のトラブルもありません。

VTVジャパンでは、お客様のオンライン会議のご利用状況や会議室環境をお伺いし、ご希望の運用を実現する機種種の選定・付帯サービスをご提案いたします。

お気軽にご相談ください。



インテグレーションモデル



カメラ・マイク一体型モデル



ボード型モデル



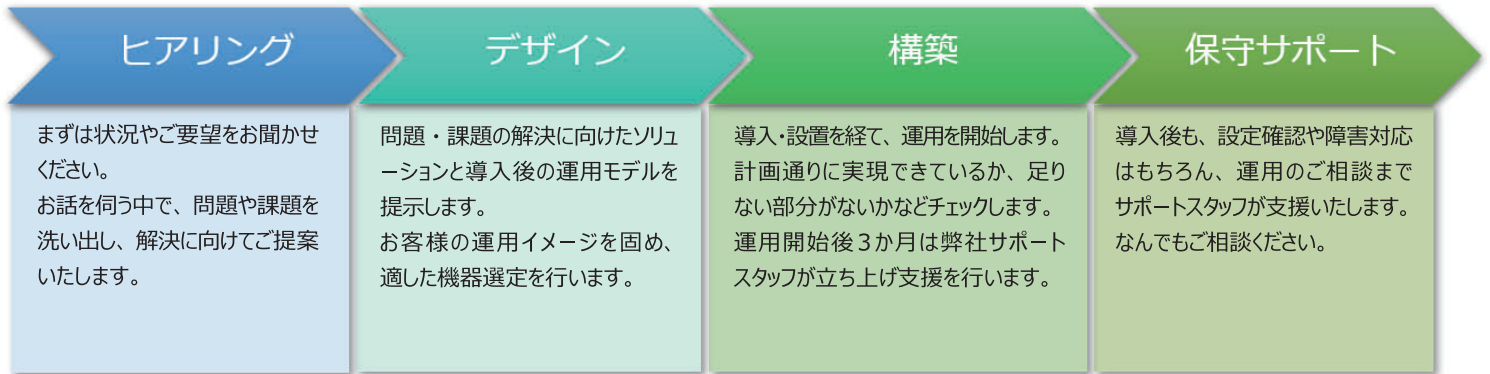
卓上型モデル

製品の詳細はこちら  
<https://www.vtv.co.jp/product/zoomrooms/top.html>



## VTVジャパンのZoom Rooms導入支援サービス

### 導入までのステップ



### 全製品に保守サポートが付帯

VTVジャパンが提供するZoom Rooms製品には、弊社コールセンターが利用できる保守サポートが付帯します。オンライン会議サポート経験5年以上の専任スタッフが、導入後の“こんなはずではなかった”がないように、お客様のオンライン会議の運用を支援いたします。



#### コールサポートの内容について

- ・ 操作および設定に関する問い合わせ対応
  - ・ 技術的問い合わせ、運用に関する問い合わせ対応
  - ・ 問い合わせ時間：平日 午前9:00～午後5:30
- ※土曜日、日曜日、祝日、年末年始等弊社が定める休日を除きます。

コールサポートと合わせて故障時機器交換・故障時の代替機貸出、オンサイト保守を付帯することができます。



東京・大阪のショールームでデモンストレーションを実施中！

デモのご予約や、導入のご相談はWebサイト、またはお電話で！

TEL : 03-5210-5021

VTV デモ





## Zoom Rooms導入事例 お客様のコミュニケーション環境を把握しているからこそできた提案 オンライン会議ツール変更でもユーザーの利用を止めない方法

### User Profile

#### 総合物流会社様

事業内容：運輸・貸倉庫・不動産事業  
従業員数：約3,000名  
導入年月：2020年3月

総合物流会社様では、リモートワーク推進のために国内10拠点で利用していたテレビ会議専用機とクラウドサービスから、Zoomに移行することを決定しました。

リプレイスは社内外でのコミュニケーション活性化が目的でしたが、そのためには簡単かつ快適にコミュニケーションがとれる環境を作ることが

大前提でした。オンライン会議ツールを変更することで社内ユーザー間で起こる混乱を最小限に抑えるにはどのような運用設計が必要なのか、数社の販売店に相談しました。しかし、運用面については思うような回答を得られず、現在のツールで運用サポート実績があった弊社に、ご相談をいただきました。

## オンライン会議ツール変更後も安心して利用できる環境実現のために

まずは運用を担当する総務部と、システム管理を行う情報システム部の双方のご担当者と弊社で、目標達成のための方向性を検討しました。新会議ツールは「ユーザーに優しいコミュニケーションツール」であり、「ユーザーに優しいコミュニケーション環境」になることをユーザーに認識してもらうことがカギになることが分かりました。

これを受けて、弊社ではまず運用面として「全社員向け勉強会の開催」と「Zoom サポートの提供」の2つをご提案しました。勉強会では現在のオン

ライン会議ツールとZoomの双方の操作画面を見せながら、今のツールから異なる点と同じ点を説明することで「Zoomに変わっても使い方に大きな変化はない」とユーザーに認識してもらうことを目標としました。

Zoomサポートについては「Zoom運用アシストプラン」をお勧めしました。現在のツールでご提供している保守サポートと同様のサービスを受けられるもので、ご担当者からは「以前同様に相談しやすく管理業務の負担が軽減できる」とご賛同いただき、2つの提案を採用いただきました。

## ユーザーファーストの視点から「Zoom Rooms」を提案

次に「ユーザーに優しいコミュニケーション環境」を実現するツールとして以下の理由でZoomの専用機「Zoom Rooms」の導入を提案しました。

### ①ユーザーにとってなじみのある会議方法に適している

ユーザーは長年、テレビ会議専用機を利用して集合型の拠点間会議を実施してきました。コロナ禍を経て、出社する社員が徐々に増え、以前のように集合型の会議も増えている状況から、Zoom環境でも専用機を利用した方が、今までの利用方法に近いと、ユーザーに抵抗感も少なく受け入れてもらえると考えました。

### ②ユーザーのITリテラシーに関係なく簡単に利用できる

ZoomはPCから個別で会議に参加するイメージがありますが、複数人で参加する場合は外部カメラやマイクスピーカーで映像・音声を拡張する必要があります。ユーザーが自分たちでカメラやマイクスピーカーの準備をし、会議に参加できるようになるには時間を要することや、配線や設定ミスによる接続トラブルが多発することが想定されました。主電源を入れ、タッチパネルのボタンを押すだけで会議に参加できる常設型のZoom Rooms

なら、誰でも簡単に利用でき、接続トラブルを未然に防ぐ方法として最適と考えました。

### ③ライセンス費用とユーザー数のバランスをとりつつ、全社員がZoomを利用できる

全社員がPCから会議に参加する運用に切り替える案も出ましたが、Zoomのユーザーライセンスは個人に紐づくため共用ができません。全社員へのライセンスの配布は、ランニングコストがかかり、大きな負担になります。しかし、Zoom Roomsのデバイスライセンスは端末に紐づきます。一部の社員にのみZoomのユーザーライセンスを配布し、それ以外の社員は会議室からZoom Roomsを使って会議を開催、または参加する運用なら誰でもZoomが利用できる環境が整うと考えました。

提案を通して、社内外コミュニケーション活性化につながる新環境を構築し、ツールが変わっても今までと同様の運用を維持できる見通しが立ったことで、弊社の提案を採用いただきました。

## 導入後も運用環境の最適化をサポート

運用開始から1か月後、導入後の経過を伺ったところ、総務部からは大きな混乱もなく運用をスタートできたと感想をいただきました。ユーザーからの問い合わせも想定範囲内で対応できているとのことでした。

一方で情報システム部からは時折音声が途切れたり、通信が不安定になることがあるとの報告を受けました。早速現地調査を実施したところ、利用率が上がって想定以上にネットワークに負荷がかかっていることがわかりました。ネットワークが増強された現在は、不具合は解消されて問題なくご利用いただけています。

今回の提案では、以前から同社の運用サポートを担当してきたことで得た同社のオンライン会議に関する情報を活かすことで、納得いただける

ご提案を行うことができました。今後も引き続きユーザーファーストでコミュニケーション環境をサポートして参ります。



▲ 今回導入されたPoly X50



## Zoom Rooms + 会議室インテグレーション事例 最新システムの導入と既存システムを整理 安定した音声で多様なツールに対応可能なオンライン会議環境を実現

### User Profile

#### イベント企画会社様

事業内容：エンターテインメントサービス提供  
従業員数：約320名  
導入年月：2023年3月

イベント企画会社様では、以前はテレビ会議システムをご利用でしたが、オンライン会議のツールをZoomに移し、会議室でも周辺機器を拡張してオンライン会議を開催していました。マイクスピーカーは会議室の規模にあわせて適正な台数を連結して利用していたものの、「会議室からの参加者の声が聞こえにくい」と社内から音声品質に対する改善要望があがっていました。

同社のオンライン会議のご担当者は、以前より弊社の情報誌やWebコンテンツをご覧いただいていたこともあり、Zoomの専用機を導入することで現状の音声問題を改善し、安定した利用が可能になるのではと考え、VTVジャパンに問い合わせをされました。

## Zoomでの会議は使いやすく、他のオンライン会議でもAVシステムを簡単に活用できる環境を

問い合わせを受け、VTVジャパンは同社の会議室へ現地調査に伺い、抱えている問題やご要望などをヒアリングしました。

同社はZoomをメインに、用途によってMicrosoft TeamsなどのWeb会議を利用し、利用率は低いものの、クラウドサービスが利用できないときのBCP対策用としてテレビ会議システムを温存していました。

音声トラブルについて調査をしたところ、利用していたマイクスピーカーに原因があるという結果に至りました。会議室にはAVシステムが入っており、これに複数台のマイクスピーカーを繋いでオンライン会議の音声を拡張していたことも要因のひとつでした。ご利用のマイクスピーカーは音声処理を行う場所が1箇所しかないため、拡張時に複数名が同時に会話すると音声処理が追いつかず音が途切れてしまうことがあるのです。

そこでVTVジャパンでは既存のAVシステム構成を見直し、①音声トラブルの要因を排除できる②メインツールであるZoomの利便性を向上できる③Web会議に参加するPCとAVシステムを連携できる、という3つの要件を満たす提案をしました。

音声改善策としてマイクスピーカーの利用をやめ、集音範囲を詳細に設定できるShureの天井マイクを採用しました。②の使いやすさは、デバイスを会議室常設のZoom Roomsに変更することで、事前準備や会議中の操作からくるトラブルやストレスを軽減できます。既存のAVシステムのうち、天井カメラ、天井スピーカー、スクリーン、ハンドマイクはそのまま活用し、プロジェクターはより輝度の高いものへ、音響用ミキサーはアナログからデジタルへ変更することで、既存システムを活かしつつ高品質な会議環境を提供します。新しい運用にあわせてAVシステムの制御システムを刷新することで、Zoomでの会議のほか、PCから参加するWeb会議やテレビ会議システムにも簡単に切り替えることができます。

同社にAVシステムを納品したベンダーと協業し、既存のデバイスを活かしつつ新しい運用にも対応したAVシステムが構築できることをご評価いただき、リプレイスが決定しました。

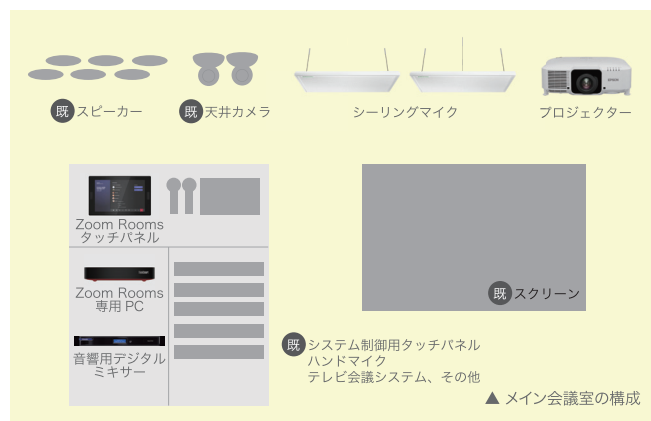
## マイクの位置を気にせずに発言できる！オンライン会議特有の制約によるストレスが減少

今回の新システム導入と併せてユーザーがトラブルなくスムーズに新システムに移行できるよう、カスタマイズマニュアルの作成サービスもご利用いただき、ソフト面とハード面の両方から使いやすい会議環境を実現しました。

新しい環境でオンライン会議に参加したユーザーからは「今までテーブルにあったマイクがなくなりスッキリした」「発言のときにマイクを気にしなくても良くなった」「声の小さな人の発言もちゃんと聞こえるようになった」との声がありました。マイクに向かって話さなければいけないなど、オンライン会議特有の制約が意外とユーザーにはストレスになっていたようで、今回のリプレイスは概ね高評価を得ることができました。

また、ご担当者からは「リプレイス以前にトラブルがあった時は管理担当者宛てに連絡が来て、直接出向いて対応していたのですが、Zoom Roomsに変更したことで、旧環境の機器構成に由来していた音声トラブルが大幅に減少し、使い勝手も良くなったので問い合わせが減り、業務負荷がだいぶ減った」との喜びの声もいただきました。

同社では現在もPCを拡張してZoomを利用している会議室があります。今後はZoom Roomsを導入した会議室のサポートとともに、他の会議室でも快適なオンライン会議に臨める環境を提供できるよう、トータルで同社のオンライン会議環境をサポートして参ります。



### ▼ 新規導入システム

- ・ Zoom Rooms :
- ・ Lenovo ThinkSmart Core+Controller
- ・ シーリングマイク : Shure MXA920
- ・ プロジェクター : EPSON EB-PU1008W
- ・ 音響用デジタルミキサー :
- ・ Symetri x Radius NX 12x8 Dante
- ・ その他 (プロセッサーボード、スイッチなど)

### ▼ 既存システム

- ・ スピーカー
- ・ スクリーン
- ・ カメラ
- ・ ハンドマイク
- ・ テレビ会議システム
- ・ システム制御用タッチパネル
- ・ その他 (電源制御器など)



## Zoom Rooms導入事例

# 会議室のオンライン会議をZoom Roomsで最適化 テレワークと出社勤務のハイブリッドワークをサポート

### User Profile

## 工作機械製造販売会社様

事業内容：電子部品製造装置の開発・製造  
従業員数：約15,000名  
導入年月：2023年2月

工作機械製造販売会社様は、新型コロナ感染対策としてテレワークを開始し、Zoomを利用したオンライン会議が増加しました。コロナ感染対策が緩和された現在も、テレワークを継続しつつ会社勤務を組み合わせたハイブリッドワークを実施しています。ハイブリッドワークでは、

テレワーカーが参加しやすいZoomをメインのオンライン会議ツールとし、これに合わせて複数人で参加する社内会議室にZoomの専用機Zoom Roomsを導入検討することになりました。

## ハイブリッドワークに合わせたオンライン会議環境の整備を検討

国内に複数の事業所と工場を持つ同社は、新型コロナ感染対策としてテレワークを全面的に実施することになり、その間リモートワーカー同士は主にZoomを使ってコミュニケーションを取っていました。アフターコロナに入った現在は、テレワークとオフィスワークを柔軟に組み合わせた「ハイブリッドワーク」を推進し、社員が効率よく仕事ができる環境整備に取り組んでいます。

テレワーク時に利用していたZoomを、引き続きメインのコミュニケーションツールとして利用することになりました。

会議室からZoomの会議に参加する際、持ち込んだPCを会議室設備に接続して会議を行っていましたが「会議のたびに接続する必要があるため準備に時間がかかる」、「会議室側の接続トラブルで時間通りに開催できないことが多い」などユーザーから不満の声が挙がっていました。

管理担当者は、具体的な改善策はないか調査を進めていたところ、会議室常設型の専用機を知りました。

## Zoom Roomsの導入検討を開始、実機の貸出や持ち込みデモを実施

会議室に設置する専用機・Zoom Roomsとはどのようなものなのか、またどのメーカーからどんな製品がリリースされているのかを、ウェビナーに出席したりしながら情報収集を始め、自社に合う製品の検討を始めました。並行して既存ベンダーにもZoom Roomsについての情報提供を依頼していたものの、なかなか思ったような回答が得られないことにストレスを感じていた管理担当者は、Zoom Roomsの取り扱いのあるVTVジャパンに相談を持ちかけました。

VTVジャパンではZoom Rooms対応製品の貸出を実施しており、導入検討中であることを伝えるとまずは実際に使ってみることをすすめられました。

そこでZoom Roomsが本当に自社の課題を解決できるシステムなのかを判断するため、機材を借りて部内方針発表会で使用してみることにしました。

年1回の定例の社内イベントとして毎年各部ごとに実施している部内方針発表会には最大8拠点に参加し、本社から発表を行います。複数の部署が各拠点の自部署の社員に向けて、本社会議室に設置した貸出機から発表会を行いました。会議室に移動して操作用タッチパネルに表示された目的の会議をタッチするだけですぐに始められるので、ほぼ時間通りに発表会を進めることができました。

マイクのON/OFFも、タッチパネルからすぐに切り替えられるので、質疑応答もスムーズに進めることができ、利用者からは高く評価されました。「持ち込んだPCを接続する一連の作業や、司会を行いながらのPC操作は、意外にストレスを感じていたのかもしれない」と当時を振り返ります。

各製品の使い勝手や機能の違いを体験した結果、会議室の規模や利用用途に合わせたZoom Roomsの導入が決定しました。



Poly Studio X30



Poly Studio X50



Lenovo Think Smart Hub 500 for Zoom Rooms



Neat pad

▲今回導入されたZoom Roomsソリューション

## Zoom Roomsで快適なコミュニケーションを実現

それぞれの会議室に合ったZoom Roomsを設置することで、ストレスを軽減しオンライン会議自体に集中できるようになりました。

また、Zoom Roomsは会議室に据え置きで利用するため、接続や配線ミスによるユーザーからのトラブル対応依頼も少なくなるのでは、と管理者

側からも期待されています。

今後もZoom Roomsを設置する会議室を増やし、便利で快適なハイブリッドワーク環境を構築していく予定です。

## Casestudy Portfolio オンライン会議活用事例

### Zoom Rooms導入事例 ハウリングなどの音の問題でままならない会議を卒業 専任担当がいなくてもスムーズにオンライン会議が開催できるシンプルな運用を

#### User Profile

#### 地方公益法人様

事業内容：所属する地域向けサービスの向上  
 構成員数：約800名  
 導入年月：2022年12月

某地方都市の公益法人様では、コロナ禍で1か所に集合して打ち合わせを行うことが難しくなったことから、定例会や外部との打ち合わせの際にはZoomやMicrosoft Teamsを使って会議に参加していました。

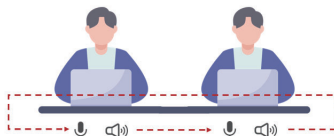
コロナ禍が落ち着き、近隣の地域の職員は会議室に集まるようになりましたが、複数人が会議室に集合してオンライン会議に参加しようとすると、ハウリングやエコーが起き、会話をするのも難しい状況で会議が成立し

ないことが度々ありました。

事務局にはオンライン会議の運用担当者がいなかったため、しばらくはこの問題を本腰を据えて解決できずにいました。しかし同法人の代表がZoom/Microsoft Teamsの専用機が販売されていることを知り、これらが問題解決の有効な手段となるのか確認するために、VTVジャパンに問合せをすることにしました。

### 現地調査で見えてきた本当の課題。持ち込みデモで利用者也納得の機器を選定

現地調査に伺って実際の会議の様子を拝見したところ、会議室に集合した5名の参加者が各々のPCからオンライン会議に接続しているせいで、音が回っていることがわかりました。リモートからPCを使って1名で参加するには問題ありませんが、複数のPCを同じ部屋に持ち込んで同じ会議に接続すると音が回る現象が発生します。弊社営業担当はハウリングが起こる原因を説明し、同じ会議室内からの接続は1つのデバイスのみを抑えることを提案しました。

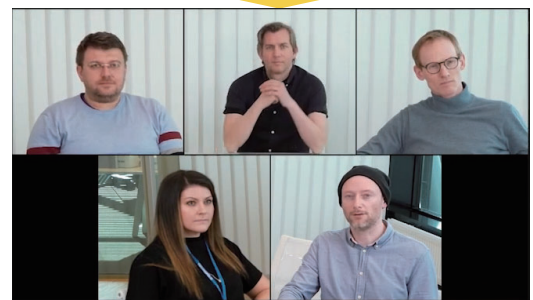
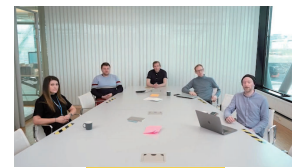


▲ PCのマイクが、近くのPCのスピーカーから出る音を拾うことでエコーやハウリングが発生する

1台のPCにマイクスピーカー、Webカメラ、モニターを接続し、映像音声を拡張して利用することもできますが、誰か1人のPCが会議中は利用できなくなるほか、接続や設定変更が毎回必要になります。弊社担当は、「運用担当者が不要なこと」、「誰でも簡単に利用できること」、「最低限の操作で会議に集中できること」が必要と考えました。また、Zoomの利用が多いこと、Microsoft Teamsより管理が簡単であることを踏まえ、Zoom Roomsをご提案することにしました。製品については、部屋の大きさや環境に適している点や、マイク・カメラ・スピーカー一体型でケーブルの数が少ない点から、Neat Frame社のNeat Bar Proを選定しました。

お客様にご協力いただき、実際の機材を会議室に持ち込んでご利用

いただいたところ、ハウリングが起らないことはもちろん、映像と音声の良さ、操作の簡単さをご評価いただき、導入が決定しました。特にタッチパネルからの操作が感覚的にできる点と、参加者全員の表情が見やすく拡大表示・レイアウトされる自動フレーミング機能が、カメラ操作を気にすることなく、会議に集中できるとご好評をいただきました。



▲ 会議室からの参加者の表情も確認できるオートフレーミング機能  
Neat製品には更に強化されたNeat Symmetryが搭載されている

### 担当がいなくても安心して利用できる環境をVTVジャパンサポートデスクがバックアップ



▲ 今回導入されたNeat Bar ProとPad

▲ 今後導入を検討されているNeat Frame。ディスプレイ一体型でWifiに対応

導入後、既に数回の会議が実施されていますが、初めて利用する職員の方でも戸惑わずに利用できているそうです。弊社が取り扱うZoom Rooms全製品には、万が一トラブルが起こった際にもすぐに対応できるようにコールサポートが付帯しています。今回のようにオンライン会議の運用担当が常駐していなくても、支障なく運用が可能です。

Zoomの専用機の利便性を実感された同法人の代表は、支部とのコミュニケーション活性化と出張回数の削減を目的に、ディスプレイ一体型のNeat Frameの導入も検討されています。引き続き、オンライン会議の効率的かつ利便性の高い運用をサポートしていきます。